

意見一覧

検討テーマ6「連携・協働に向けた意識啓発」について

見出し	意見内容	意見者
タイトル	<p>・この章のタイトル「連携・協働に向けた意識啓発」であるが、取組の大きな方向性として「意識啓発」だけにとどまらない。区民や事業者等への「意識啓発」は、環境政策の目標であるとともに手段でもあり、意識啓発を通じた「各主体の取組の拡大や主体間の連携強化」「協働の取組の促進」についても、同様に重要な環境政策テーマである。</p> <p>また、環境基本条例の第4条の総合的な施策を定めるべき「区の責務」（4条の施策課題を明示）や第9条「協働」、第10条の「協働の取組」の内容も踏まえて、この章のタイトル、内容を検討することが必要ではないか。</p> <p>・このような観点から、本章タイトルを見直してはどうか。例えば「環境保全に係る（意識啓発と）連携・協働の促進」など。この場合、原案に「意識啓発」が入っているため「意識啓発」の表記を残したが、主題は連携・協働であるので、この箇所は削除でも良いと思う</p>	田中副会長
1 現状	<p>・ゴミ集積所は指定日以外に出す方が居るので予防方法を明記してほしい。</p> <p>・分別しないで出す人をなくす方法を明記してほしい。</p> <p>・高齢の方は区のホームページを見るため設備がない方が多いので対応について。</p> <p>かつて、中野区には中野区環境リサイクルプラザ消費者センターがあり、その頃は環境学習、消費者教育の拠点として活用されていました。</p> <p>そこで活動していた区民団体が実行委員会として区が事務局となり「環境まつり」としてイベントを実施していた期していました。現在も建物は残っていて、ソーラーパネル、屋上から太陽光を下の階まで届かせて利用する設備。あまみず利用の設備なども残っているのではないのでしょうか？もう一度ここを環境活動の拠点として整備しなおしていただきたい。京都の京エコロジーセンターとか新宿エコギャラリーなどの例もあります。</p> <p>中野区温暖化地域協議会がキックオフされたままでその後の動きがありません。</p> <p>「エコフェア」は環境リサイクルプラザがなくなったときに一年だけ区が主催で実行し、翌年は中野区温暖化地域協議会が中心となって実施するということでしたがもう何年もたっています。</p> <p>中野区温暖化地域協議会の実効性を誇り、エコフェアを実行委員会制に戻し、環境リサイクルプラザを刷新することが望まれます。</p> <p>・この「現状」の項では、市民アンケート調査等の結果を記載しているが、この課題に関する現状は区民意識等の現状にとどまらない。例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内における環境教育・学習の現状（環境意識の向上の取組の現状）、 ・区民主体や活動団体による環境保全活動の現状（活動団体の現状、質問に対する回答に記載がある） ・区と区民、区と事業者等の連携・協働の取組事例の紹介など、 <p>を記載してはどうか。</p> <p>・環境情報の収集方法を得るための媒体の2番目に「中野区ホームページ」があるが、実際に検索すると、ホームのトップページに環境に関するバナーが見当たらず、環境に関するバナーを入れ、環境に対する様々な取り組みや、情報を見やすくできると良いと思います。</p>	高橋委員 須藤委員 田中副会長 福島委員
	<p>(3) ①地域環境アドバイザーについては、制度を検証し、見直す。答申案（回答案）の「地域環境アドバイザー制度については、制度を検証し、見直す」を加えて欲しい。</p> <p>回答【31年度事業実績】(1) 環境教育・環境学習 7みどりの教室は「31年度実施なし」とありますが、緑についての理解を深めるために重要だと思えます。開催予定回数、対象者についての記載をお願いしたい。</p> <p>同じく回答(3) 2.花と緑の祭典の実施について、①実施回数2回(春・秋)を記載して欲しい。更に開催日「各2日間」を加えていただきたい。②来場者数：約1,800人とありますが、2019年春(6,795人)、2019年秋(11,322人)の計18,117人でした。</p>	池内委員
2 これまでの主な取組みと成果	<p>○中野区商店街連合会としての取り組み 中野区商店街連合会に加盟している60の商店街全ての街路灯をLED化した。</p> <p>○個人としての取り組み；地域環境アドバイザーとして まちなかの緑化を推進するためには、環境教育・環境学習は大切である。具体的な緑化の知識や技術的なことを学べる機会が必要である。 私は地域環境アドバイザーとしてみどりのカーテンの推進に協力してきた。 みどりのカーテンは環境問題と緑化について学ぶ上で分かりやすく、狭い場所でも気軽に取り組み、効果を実感できる。 *ただし、私の経験上、区立小中学校の校舎に設置したみどりのカーテンが成長して効果を実感できるのが夏休みであるため、生徒たちはその効果を実感できない。この点から学校での実施には問題があるので、注意したい。</p> <p>質問票にも書きましたが、こうした取り組みをしたことで、中野区として当初想定していたゴールに対してどの程度まで到達し、一方でどこに課題があったと認識したか、ということが重要ではないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たとえば、環境教育・環境学習には大人子どもも含め〇〇名が、この取り組みに関与したが、区立校全体で言うと網羅率は〇%で、途上にある。といった感じです ・意識啓発でいけば、高齢者層・ファミリー層には一定のタッチポイントを得たが、中野区に多い、若年層・一人世帯へのアプローチについては、相当課題がある <p>上はあくまで例で書いたもので、芯をくった課題ではないと思いますが、こういうまとめがあつてしかるべきではないかと思えます。</p> <p>環境教育・環境学習、意識啓発、連携・協働と3項目について取り組んだ実績が記載されているが、成果という部分での記述が読み取れないので、何らかの成果を追記したほうが良いのではないのでしょうか。</p> <p>2(1)⑥について、「1 現状(1) 区民 ①区の環境施策への要望」にて、区民からはポイント制度等の要望が高いことがわかります。エコポイント（環境物品コース）では、PTAがメインとして参加されており、家庭(親子)で環境に配慮した物品を探さきっかけとなり効果が高いと思われます。さらに発展させるため、商店街や小売店舗などとの連携を高め、売り場での案内が展開できるとよいと思います。</p> <p>・これまでの取組にもなう「成果」に関する記述が薄い(少ない)。質問に対する回答に記載があつたように、いくつかの項目に関して、取組実績と成果に関する記述を追記してはどうか。</p>	星野委員 関崎委員 横田委員 坂本委員 田中副会長

	<p>(1) 環境教育・環境学習②なかの里・まち連携自治体(群馬県みなかみ町・福島県喜多方市)で森林学習等を行う「環境交流バスツアー」の実施とありますが、喜多方には会津電力という市民発電所が見学も受け入れられています。是非ともツアーに組み入れていただきたいです。また、「中野の森プロジェクト」においては単一林なのでCO2の</p> <p>(3) 連携・協働①地域で行われる環境教育活動について助言・協力を行う「地域環境アドバイザー」制度の実施とありますが、審議会でもこれまでご提案してきましたが、この制度で認定されて何年もたっています。これまでのアドバイザーへの再教育、新しいアドバイザーの認定などできることは</p>	須藤委員
	成果とありますが、数字等で表せるものがあれば、具体的な成果として区民に伝えられるとよい。	福島委員
	これまでの成果について聞けるとよい。	寺崎委員
3 近年の動き	<p>この近年の動きなかでは、社会全般の近年の動きを披歴されているのでしょうか、だとしたら一番上で、1近年の社会の動きとし、2中野区の現状とすべきだと思います。</p> <p>(5) SDGs (Sustainable Development Goals) においても、教育が目標の一つに位置付けられている。とありますが中野区においても、SAGSを経営企画室で担うということをお聞きしていました。これの進捗状態をどこかで説明しておく必要があると思います。</p>	須藤委員
	・「環境ナッジ」に関する取り組みは、区内でも実績がない。この項の記述は、簡潔(もしくは削除)してはどうか。代わりに、環境教育や環境保全に係る連携など都の取組を記載する。	田中副会長
	<p>限られた空間で緑化をするためには、みどりのカーテン・壁面緑化を推進していくことが有効かと思えます。</p> <p>みどりのカーテンを設置することの環境問題への効果は環境学習上大変わりやすく、身近で気軽に取組めるものです。</p> <p>そのためには区民に対して講習会を行う必要があります。</p> <p>公共施設での積極的な取組も必要です。</p> <p>ボランティアの育成が必要になります。地域環境アドバイザーの活用など。</p> <p>過去において環境問題のイベントは、ボランティアによるボランティアのための啓発、活動になりがちでありました。</p> <p>もっと区民を巻き込んだ取組みにしていくことがポイントだと思います。</p> <p>過去には、環境リサイクルプラザがあり、ボランティアたちの活動拠点として活用されてきました。今後は各地域の区民活動センターがその役割を担うべきかと思えます。そして地域の町会、施設、商店街、団体と協働し環境・緑化活動を地域に根差した活動になることが期待できます。</p> <p>身近にある公園での緑化活動も地域住民の環境問題に対する取組みにしていくとよいかと思えます。</p>	星野委員
	<p>・記載が全体に混在しているのではないのでしょうか。どれが基本的な考え方で、どれが課題なのか。すぐに着手できるものと、少し時間がかかるものなど。</p> <p>・もしくは目指す方向性をしっかりと記載していただく。</p>	関崎委員
	<p>・基本的な考え方 → 区立小中での環境教育の強化、かつ、保護者も取り込んだ学習機会の増加をはかる</p> <p>・検討が必要な課題</p> <p>・取組みの方向性</p> <p>整理しての記載が必要だと思います。</p>	関崎委員
4 目指す方向性・基本的な考え方と実現に向けた課題	<p>・4(1)⑥について、「各学校の実態に応じてSDGsを意識した取組を推進」とありますが、コロナ禍の影響で、SDGsターゲット3.3 (2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。)等に関連した活動に、区民の自主的な取組がフォーカスしてしまう可能性があるのではないかと思います。これまで取組んできた環境活動が後退してしまわないように、啓発やガイドが必要かと思えます。</p> <p>・4(1)⑥について、今後ESDの一環として、環境活動を推進する「こどもエコクラブ」の形成を促進させ、地域での自発的な環境活動を発展させてはいかがでしょうか。</p> <p>・4(2)①について、1(2)①の現状にて事業者からの期待が高い「環境に関する情報の提供」については、環境物品の調達に関しグリーン購入ネットワークやエコマークによる勉強会等の実施が一案として挙げられます。また、「区役所や公共施設で、率先して取組みを行う」との声もありますので、区職員に対して同様のセミナーを実施することも考えられます。</p> <p>・4(3)②について、食品ロス削減に関し、飲食店や食品小売店等と連携した普及は率先して進めてはいかがかと思えます。</p>	坂本委員
	<p>・原案では、「環境教育・環境学習」「意識啓発」「連携・協働」の3項目に分けて記述しているが、「質問」でも記したように、区が行う「支援」も重要な対策テーマである。基本条例第10条第3号にその旨の記載がある。中野区では区民公益活動に関する助成制度を実施しているとのことなので、この制度を積極的に活用して、区民・団体に対する支援の方向性を記載してはどうか。</p> <p>・「意識啓発」の項で、方向性を記載している内容には、情報提供の取組が含まれている。この項のタイトルを「情報提供と意識啓発」などとしてはどうか。</p>	田中副会長
	<p>答申案に記される世界、日本等の動向にも記されているように、環境基本計画の背景では必ず脱炭素や省エネルギー等が大きく取り上げられます。しかし、目指すべき方向性や・基本的な考え方では、ごみ減量、食品ロスなどに比べ、エネルギーに関わる言葉や内容が表に出てきていない印象です。折角、1頁の現状「(2) 事業者③地域社会との連携」では、省エネルギーや再生エネルギーの利用の啓発・促進が上がっています。そこで、4頁でも省エネルギーや再生エネルギーの利用の言葉や内容を盛り込めないでしょうか。</p>	村上委員
	日本の環境の取組みについて、海外に遅れているように思います。特にエネルギーの取組みは原発に依存しているので、再度事故が起きた場合を考えると心配です。	寺崎委員
その他の事項について	<p>ESCO事業についてのご案内がありました。そもそも2010年に事業者行動計画などを後押しするために排出権取引などで、環境に配慮すると利益が上がるという仕組みでした。</p> <p>ところが2011年の震災、放射能事故があり、電力不足が見込まれて、節電が当たり前になり、ESCO事業は事業化を断念するところが多くなりました。そもそもESCO事業は利益を上げるものです。費用対効果、いくらかけて補助金がいくらあり、何年後ぐらいには回収できるのかなどの説明が必要だと思われます。</p>	須藤委員